

## 国交省は、いま

2020年3月までに、羽田空港を利用する飛行機を増便し、都心を低空で飛ぶ新しい飛行ルート計画を進めています。この新しい飛行ルートでは、表参道付近で高度600メートル、高輪付近では450メートルを飛行機が飛ぶこととなります。

港区は、この飛行ルートの下に位置しており、ここで生活する私たちに、飛行機からの落下物や騒音などの大きな危険が降りかかってきます。

想像してみてください、私たちの暮らす街の頭上を飛行機が飛んで行くのです。

## 騒音は大丈夫？

私たちが生活している上空を飛行機が低空飛行すれば、騒音に悩まされることは容易に想像できます。港区周辺では、70デシベル（1mの距離でのステレオ・街頭の喧噪など。会話が成り立つのは1m以内の距離での大声）程度の騒音になると想定されており、高い建物に住んでいる方や勤めている方は、もっと大きな音を感じるはず。しかも、それが2分に1回の頻度で頭上を通過するというのですから、身体的・精神的な影響が生じるおそれがあり、極めて重大な問題です。

山手線と同じ頻度で飛来

犬・猫は人間の700倍の聴覚



## 落下物や墜落の危険は？

国交省の調査で、2008年5月に千葉県香取市の畑に落ちた落下物（エアコンのパネル）の重さは最大約12kg、これは過去十年間で最大であることが確認されています。また飛行を終えた航空機から機体カバーなどの部品がなくなっていたケースが2009年以降の8年間で437件確認されています。うち重量が1kg以上、または面積が1000平方センチ以上のケースが64件もあり、飛行中に落下した可能性もあると報じられています。世界中で航空機の墜落のニュースもたびたびあり、東京の市街地を飛行されることになれば、危険性ははかりしれません。

## 所有不動産の資産価値に影響はないの？

不動産の資産価値は立地・住環境・利便性・管理体制など様々な要素によって決まります。「住環境」には騒音や災害リスクの有無なども含まれます。電車が2分に1本通る線路が所有不動産の隣にできる場合に資産価値が減少するのと同様です。

したがって、購入した時点ではなかった航空機飛行による騒音や墜落・落下物の危険性が新たに発生すれば、資産価値も減少することになります。